

五島市中総体陸上大会

6月6日（月）前日の暴風雨が収まり延期となった五島市中総体陸上競技大会が青空の下開催され、五島市内の中学校全生徒（約800名）が中央公園陸上競技場に集いました。駅伝大会でも全中学校の出場および全生徒が集うことがありませんでしたので、実に3年ぶりの開催になります。これまで2年間は、

球技・武道大会と同日開催で参加者も陸上部が中心だったため、



盛り上がりは十分とは言えませんでした。しかし、今年は声を出しての応援や保護者の参観には制限があったものの、本来の姿に近い形で開催できました。球技・武道大会が終わり、わずか12日の練習期間しかなく得意でもない、どちらかと言えば苦手な陸上の練習に生徒6名は一生懸命に取り組み、短距離走、ハードル走、走り幅跳び、長距離走、砲丸投げ、そしてリレーに出場しました。

大会を前にした選手激励会では陸上部でもなく、満身に練習できていない生徒数わずか



6名の久賀中学校が何故、陸上競技大会に出場するのか、その意味について次の3つを話しました。

①苦手なことにも挑戦する「敢為の精神」を育てほしい。辛く苦しくとも最後までやり通す気持ちを身につけてほしい。

②必死に頑張る同世代の姿を肌で感じてほしい。専門競技でもない陸上種目に学校代表としての挑む同世代の仲間の姿を身近に感じてほしい。

③五島の子ども達の姿を見てほしい。久賀島の中では感じることでできない五島の中学生のエネルギーに満ちた姿を感じ、互いに切磋琢磨してほしい。

生徒達は、卓球競技とは違い大人数を前してこれまで以上に緊張



している様子でした。しかし、立派に乗り越え、全力で走り、跳び、投げて自己ベスを更新することができ、満足した表情で競技を終えました。その生き生きとした姿は見る者に勇気と感動を与え、清々しい気持ちで満たされました。久賀中にしま留学したからこそできた貴重な体験でした。記録や結果以上に逃げずに挑戦し、やり遂げたことで自信となり、一回り逞しく成長した2週間でした。



奥浦小学校との交流学习

6月1日(水)小学生3名は奥浦小学校との交流学习を行いました。当初の予定では、奥浦小を訪れ、各々の学級で机を並べて学習をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度も残念ながらリモートによる交流となりました。



3・4年生の学級とは学校紹介クイズや自己紹介を行いました。5・6年生との学級とは英語での自己紹介と俳句の披露を行い、交流を深めました。初対面の児童が多く、恥ずかしがったり戸惑ったりするのではないかと心配しましたが、以前からの友達のように積極的に質問したり、回答したりしました。英語で堂々と発表する姿は、頼もしさを感じ、本校で取り組んでいる外国語教育の成果を実感しました。火曜日の放課後には、全校児童生徒・職員でcatchEに取り組んでいるので、そこで学んだコミュニケーション力を十分に発揮できました。



今回リモートでの交流学习にICT機器を利用しましたが、天候や感染症の影響が少ないICT機器を多くの場面で活用する場面が増えました。いよいよ来月からは児童生徒用のタブレットPCの持ち帰りが始まります。職員研修も充実させ、積極的活用を図っていきます。



久賀を知る(総合的な学習)

小・中学校ともに「総合的な学習の時間」として久賀島のことへの理解を深めるため校外学習に取り組みました。小学校は地域散策を行い、自然豊かな久賀島に育んでいる生物について調査活動を行いました。トンボやカエル、カニやヘビなど珍しい生物に興味が湧きながら、生態系の仕組みについて感じ取っていました。都会では味わうことが難しい貴重な体験を学校周辺ですぐに味わうことができ、新たな調査場所へ期待が増しています。



校庭には梅の木があり、毎年多くの実をつけます。今年も5月末に収穫し、小学生がきれいに洗浄し、シロップにつけて梅ジュースを作りました。できあがりを楽しみにしながら教室で大切に管理しています。



中学校は、久賀島の宝について地域の名所を調べ、その良さを発信しようと地域調査に取り組みました。旧五輪教会、福見の恵剣寺、岩屋観音、亀の倉海岸など地域の文化や歴史に触れ、久賀の素晴らしさを感じ取っていました。小島満さんにも講義をしていただきました。



久賀小中学校のホームページ

<http://hisakashochu.tn.goto-tv.ne.jp/>

